

令和6年度大槌町 不登校対策支援計画（案）

大槌町教育委員会 学務課 大槌型教育推進班

大槌町 不登校対策支援計画（案）

文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」（COCOLOプラン）

（令和5年3月31日通知）

- 1 不登校の児童生徒すべての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えます。
- 2 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援します。
- 3 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。



岩手県教育振興計画（案）

- 児童生徒に寄り添った教育相談体制の充実等による、不登校対策の推進
- 多様な教育ニーズに対応する教育機会の確保
- 就学前から卒業後までの一貫した支援の充実
- 魅力ある学校づくり

町立学園（校）における不登校対策支援計画（案）

（令和6～10年度の5か年計画）

- 【達成目標1】 町内の学びの場を整備し、学びの保障を受けていない不登校児童・生徒を「0」にする。
- 【達成目標2】 前年度の新規不登校児童生徒数を上回らないことを目指す。

大槌町 多様な学びの場の選択肢

①各学園適応支援教室 **つつじ教室**



校内の別室での学習支援

②適応支援センター（OLAI内）
けやきルーム（共室）



居場所、学習支援を実施

③岩手県立大槌高校内
コラボスクール（認定NPO法人等）



学習支援を実施

自宅以外の場所で、
家族以外の大人と関
われるように支援す
ることを目的とする

④校外活動 **けやき体験学習**



体験活動を中心とした
キャリア教育を実施

SSWによる支援

支援チーム

教育相談員、SC、SSW、担当指導主事、医師他

大槌町型 多様な学びの場

各学園適応支援教室

「つつじ教室」



対応者

- ・ 教員
- ・ 養護教諭
- ・ (SC、SSW)

【趣旨】

誰一人取り残さない教育の実現に向けて、学校生活上、不安や困難を感じている児童・生徒への多様な居場所

活用例

- ・ 早期発見・早期対応・早期支援
- ・ 教室に入れなくても学校に登校可能な児童生徒が過ごせる場
- ・ 一時的なクールダウンが必要な児童生徒の居場所
- ・ 教員やSCとの教育相談の場

具体的支援方法

- ・ 一時的な滞在の許可
- ・ オンラインでの授業参加の支援
- ・ 自習の支援
- ・ 教員、SC、SSWとの面談の段取り
- ・ 保護者との面談

【連携に関する取組】

- ・ 校内研修での共通理解
- ・ 保護者への周知
- ・ 担当者への対応力向上研修

大槌町型 多様な学びの場

適応支援センター「けやきルーム」★学校登校が難しい児童生徒の居場所



目的

- ・登校が難しい児童生徒の自宅以外の居場所づくり
- ・生活習慣が乱れた児童生徒の支援が目的であり、学習支援は主目的ではない（本人の希望があれば、学校復帰支援は行う）
- ・児童生徒、その保護者の拠り所となる場所
- ・食生活や体力、コミュニケーション力などの支援を行う
- ・子ども食堂実施の際の場所提供（民間による運営）

- ・異学年交流から、他者との関わりや社会性などを身に付ける。
- ・最終的に目指すゴールは、「学校生活への復帰」ではなく、「社会的自立の力をつける」こと。そのために、ソーシャルスキルやメンタルトレーニングを重点としたカリキュラムを行う。

支援者

- ・教育相談員（常時）
- ・支援員（常時）
- ・ボランティア
- ・SC、SSW、医師（定期）
- ・民間団体等

具体的支援方法

- ・午前のみ、全日の滞在の選択可（午後からの登校については要相談）
- ・基本的な生活習慣の改善の支援
- ・個別の指導計画に則った支援
- ・自習、オンラインでの授業参加の支援
- ・生徒や保護者に対して教員、SC、SSW、医師との面談
- ・社会性を育む体験活動の実施
- ・（送迎の支援）

大槌町型 多様な学びの場

適応支援センター「けやき共室」

★学業不振を予防する場所と異学年
交流の場としての活用



目的

- ・不登校のきっかけの一つとなっているのが、学習のつまづきからくる「学力不振」であることから、それを保障する場所
- ・小中高の児童生徒が「自学自習できる場所」として提供
- ・中高生による『ミニティーチャー』が、小学生に学習を教える機会を積極的に推進
(※大槌高生のプロジェクトor研究会的な取組など)
- ・「子ども食堂」による朝ごはんの提供場所（民間による運営）

支援者

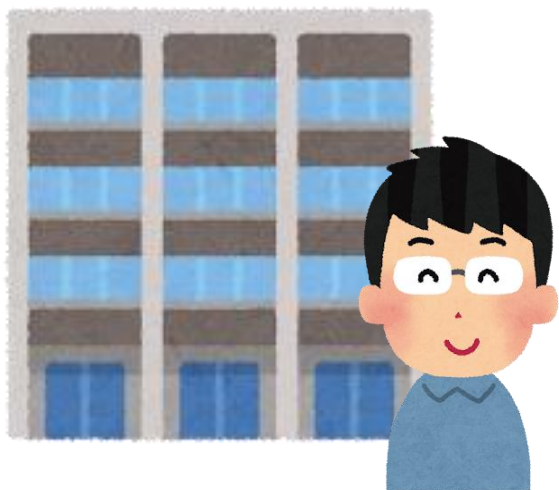
- ・会計年度職員
- ・地域ボランティア
- ・（大槌町内の高校生）
- ・民間団体等

具体的支援方法

- ・自習環境の整備・見守り
- ・朝食支援の際の、場所の提供及び支援

大槌町型 多様な学びの場

県立大槌高校内 「コラボスクール」 (認定NPO法人等)



目的

- ・中高生の「居場所」として提供
- ・自習や探究活動、英語検定など主に学習支援を行う
- ・身近な大人（NPO法人等職員や高校生）のロールモデルから、自分自身の将来のイメージを持つ
- ・「ナナメの関係」によるセーフティネット的役割

支援者

- ・認定NPO法人等
- ・大槌町教育委員会

具体的支援方法

- ・自習環境の整備・見守り
- ・学校や関係者との情報共有

大槌町型 多様な学びの場

校外活動「けやき体験学習」



目的

- ・ 家族以外の大人と関わり、地域とつながりを持つ
- ・ 地域の様々な職業の人たちを知り、将来のイメージを持てるようにする（キャリア教育）
- ・ 地域に不登校はじめ、困難を抱えた子どもたちを理解し、支援者となるきっかけづくり
- ・ 「ふるさと科」と連携し、出席や授業参加に反映

支援者

- ・ SSW、SC、教育相談員
- ・ 地域コーディネーター
- ・ 地元の企業、産業
- ・ ボランティア

具体的支援方法

- ・ 体験活動の企画・実施
- ・ スキルトレーニングの実施
- ・ 自己表現活動（話す、書くなど）のトレーニング